

## 株主の皆様へ



株主の皆様におかれましては、ますます  
ご清栄のこととお喜び申し上げます。  
さて第99期中間期(平成14年4月1日  
から平成14年9月30日まで)の営業概  
況の報告をご高覧いただくにあたりまし  
て、ご挨拶申し上げます。

当社は、商品やサービスを通じて感動を創造すること  
で、社会に貢献することを経営の基本理念としていま  
す。ユビキタス映像・情報社会のなか、イメージング分  
野において夢のあるクリエイティブなソリューション  
を提供することにより、企業価値の向上を図り、株主  
満足、顧客満足、従業員満足を実現してまいりたいと  
考えております。

平成12年にキーワードをSPEED(スピード)、  
ALLIANCE(提携)、NETWORK(ネットワーク)とする  
中期経営計画「SAN プラン」を策定しました。イメージングの入出力分野をグループの事業領域と位置づけ、事業ポートフォリオの観点で各カンパニーの使命を明確化、コア技術の強化育成、各事業のデジタル・ネットワーク化の促進と成長分野への全社経営資源の重点配分を行うことにより企業価値を高めてまいりました。

この結果、当中間期の連結での売上高は前年同期比4.4%増の2,789億円、営業利益は前年同期比40.6%増の194億円、中間純利益は前年同期比90.0%増の67億円となりました。成長分野であるオプテクノロジー事業の売上高は大幅に増加、また、オフィスドキュメント事業ではソリューションビジネスが着実にその成果を表すなど、売上高に占めるデジタル・ネットワーク化対応の製品の比率も年々増加し、当社の収益向上に大きく貢献いたしました。

株主の皆様にはすでにご報告しましたとおり、当社は、分社化・持株会社制に移行する方針を決定しております。当社の事業領域であるイメージングの入出力分野は、デジタル化の進展とともに新たな領域での市場の創出により、大きな成長が期待されています。企業の持続的な成長を実現していくためには、現在の事業モデルを変革すると同時に、競争力のあるコア技術を活用し、強い分野への経営資源の投入が必要です。そして、グループ全体ではリスクの最小化を図りつつ、企業価値を最大に高めるために事業ポートフォリオ経営を実践していくことが必要であると判断し、分社化・持株会社制への移行を決断いたした次第です。

当期は、そのための準備として擬似分社化を試行し、その仕組みのチェックを進めると同時に、社外取締役制を導入して意思決定機能・監督機能と業務執行機能の分担を明確にし、それぞれの機能の強化を図ってまいりました。

平成15年4月には、当社が営む現在の全事業を分社し、当社は、この分社会社の株式を保有する持株会社へ移行して新たな企業形態へと生まれ変わる所存です。分社して独立する事業法人は、競争力強化、顧客の視点で事業を再編成した4つの事業会社、また、グループ全体の間接業務の効率アップと専門性向上を目指した2つの共通機能会社となります( 5ページ参照 )

これらの会社は明確な責任と権限を持って事業ごとに最適でスピーディーな事業経営を行い、競争力の徹底的な強化を図ります。一方で当社は持株会社としてこれらを統括し、経営資源の最適配分、経営効率の向上、提携戦略の強化、大型新規事業の育成を進め、事業ポートフォリオ経営に基づく戦略的意思決定を行ってまいります( 4ページ参照 )

こうした企業組織の大幅な改革を実行し、より強固な収益基盤を擁する企業グループを目指すことで企業価値を高め、株主の皆様のご期待に応えてまいりたいと存じます。

分社化・持株会社制への移行につきましては、平成14年12月19日に臨時株主総会を開催し、ご承認をいただく予定でございます。

株主の皆様におかれましては、尚一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

平成14年12月

代表取締役社長  
岩居文雄